



群馬県絶滅危惧ⅠA類 アサザ

遡上が確認できてからは、毎年遡上見学会を開催しています。他にも、小学生を対象に生き物を探すイベントを開催したり、水質検査を実施したりと、子ども達が川に触れ合えるように様々な取り組みを行ってきました。

多くの子ども達の参加が喜び

子ども達が参加してくれることは大変嬉しいことです。長年活動が続いていますので、当時、小学生として参加してくれた子どもが親となり、自分の子どもを連れて参加してくれる時などは、地域づくりに取り組んでよかったです。心から思います。

県内最大のビオトープの完成に向けて

河川の清掃活動は現在月に2回程度行っていますが、約6年前からは外来種の調査・除去活動、

ビオトープとは

地域に住むさまざまな生き物が地域固有の自然生態系を構築している空間のこと

植生活動にも取り組み始め、その活動が発展し、現在は大学の先生にも協力をいただきながら男井戸川でビオトープ作りに取り組んでいます。男井戸川には県の絶滅危惧種に指定されているアサザやコギシギシが生息していることが分かっていますので、これらの在来種を保護し、昔からの自然環境を復元することが目標です。ビオトープの完成までは10年や20年かかるかもしれません。完成後も外来種の除去には継続して取り組まなければいけませんので、大変なことも多くありますが、自然環境を守り、豊かな自然を子ども達に引き継ぐという思いを胸に、これからも息の長い活動を行っていきたいと思います。

最後に一言

1日1個で良いのでゴミを拾いましょう。1人1個は大したことないかもしれませんが、集まれば大きな力になります。

好きな言葉

「天敬人愛」
天を敬い、人を愛すという意味です。富士山に登ってご来光を拝むように、深く考えたいなくても、自然や天を敬っているのだと思います。

次にバトンが渡る人は誰でしょう？

WHO IS NEXT?

次号をお楽しみに!!



ゴミ拾いから始めた地域づくり

私は長年粕川で釣りをしているのですが、魚が釣れなくなるなど、川が汚れていると感じていました。また、川は危ないから近づいてはいけないところだという考え方が広がり、川で子ども達の姿を見なくなっていたことから、川を昔の姿に戻したいと思うようになり、平成4年から、釣り仲間とゴミを拾うという簡単な活動を始めまし



「殖蓮地区自然環境を守る会」膳福一さん

た。ペットボトルや自転車等、多くの物が捨てられていましたので、地域の皆さんにも関心を持ってもらい、参加してもらいたいと考えました。ゴミ拾いだけではなかなか人が集まりませんでした。そのことを地元の小学校の校長先生に相談したところ、「大きな夢を持って、粕川にサケを戻そう。そうすれば人が集まるのではないか。」と提案され、目的は川を綺麗にすることですが、手段のひとつとして、地域の子も達を集め



粕川にて、サケ遡上の様子

てサケの稚魚を放流する活動を始めました。
17年目でサケの遡上を確認
サケの放流活動を始めた当初は、「サケが粕川に戻ってくるはずがない。子ども達に嘘をつくことになる。」と多くの批判がありました。しかし、夢を持って活動を続けたところ、17年目にして初めてサケの遡上が確認出来ました。このときのサケは剥製にして地元の殖蓮公民館に飾ってありますが、本当に嬉しかったことを覚えています。

「明るく仲良く面白く、昔の風景を現代に」

「殖蓮地区自然環境を守る会」膳福一さん

地域づくり人物リレーは、県内で地域づくり活動をされている方を取材し、紹介してまいります。第19回目は、膳福一さんにスポットを当て、お話を伺いました。

